



いずみさの昔と今 第232回

「泉佐野のお宝大集合②」

「岸和田藩主が食野家に与えた文書」

前回に引き続き、今回も企画展の展示資料を紹介します。

写真にあげた「岡部長寛黒印状」は、江戸時代末期の安政6（1859）年に、岸和田藩岡部家第12代藩主であった岡部筑前守長寛から、日根郡佐野村の食野幾一郎に宛てられた黒印状です。文書の中心部分の黒印の上に大きく「筑前」とありませんが、これは筑前守であった長寛のことをさします。

黒印状とは、黒い墨で印を押した文書をさします。この黒印状は、土地の所有権を確認・承認し、年貢米や諸役（年貢以外のこと）を免除するといった特権を相手に与えた文書で、「諸役免許状」とも呼ばれます。年貢・諸役を免除される対象となるのは、その土地の有力者でした。そのため免除の特権を与えられることは、家や個人の格式の高さを示すものであり、たいへん名誉なことでした。食野家は、江戸時代の佐野の豪商として知られており、海運業を営み、大名貸（財政難の大

名にお金を貸すこと）を行っていました。本家の次郎左衛門家と、分家の吉左衛門家などがあ

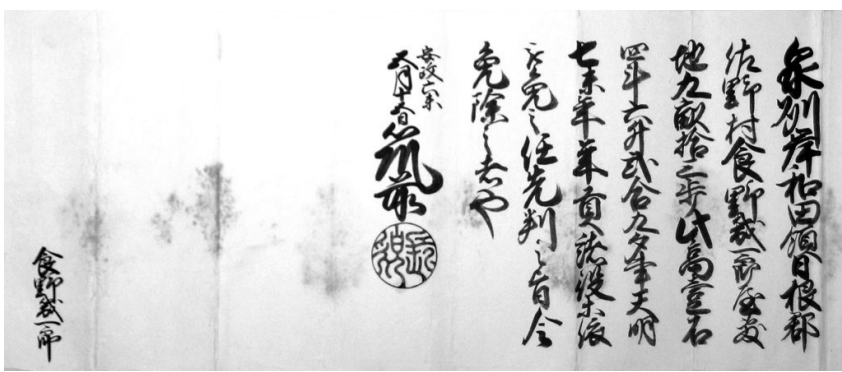
りました。食野家は、領主の岸和田藩に対して、大名貸だけでなく、藩札（藩が独自に発行した紙幣）の札元（発行元）ともなり、藩財政を支えていました。食野幾一郎は分家である吉左衛門家の第12代当主です。文書によると、幾一郎の屋敷の面積は9畝13歩（約943㎡）で、石高は1石4斗6升2合9勺（約263ℓ）あったようです。石高は米の収穫量のことですが、江戸時代には田畑だけでなく、屋敷地の資産価値についても、面積をもとに米の収穫量に換算して表していました。

古文書の左端にある宛名の「食野幾一郎」の位置をみると、文書のいちばん下の部分にあります。文字も小さく書かれています。また、通常は宛名には「殿」をつけますが、幾一郎にはつけられていません。宛名の位置は、受け取る相手の立場により上下しますが、ここでは差出人が藩

主であり、幾一郎の名は藩主の名より下になっています。

また、この文書は、折紙という紙に記されています。和紙を半分折り、横に細長くしたのが折紙で、折り目を下にして、右から書き始めます。これは略式の文書に用いられることが多かったようです。

幕末の食野家と岸和田藩の関係を示す重要な文書といえます。



▶ 岡部長寛黒印状

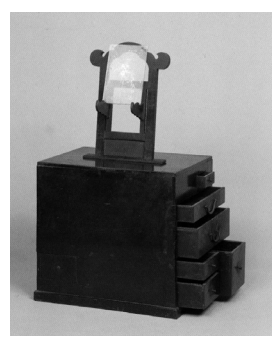
企画展

泉佐野のお宝大集合 ～新収蔵品展～

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさのでは、泉佐野市の歴史や文化に関する様々な資料を収集してきました。今回の企画展では、古文書や民具など、平成22年度以降に収集した資料を紹介します。

期間 4月18日(土)～5月31日(日)

主な展示資料 室鳩巢書簡（佐野の唐金梅所がもらった手紙）、岸和田藩主岡部長寛黒印状（佐野の食野家に出した文書）、崑崙実録（明厳寺住職覚順の著作）、職人尽絵巻、鬢鏡、染型紙、奉公袋など



▲ 鬢鏡

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの
☎469-7140
Fax469-7141
休館日 月曜日
(祝日の場合は翌日)
開館時間
午前9時～午後5時
(入館は午後4時30分まで)
入館料 無料



◀ 職人尽絵巻